

令和4年度第1回府中市都市計画審議会

【議事概要】

○開催日

令和5年3月17日（金）14：00～16：30

○開催場所

府中市役所4階 第一委員会室

○出席委員

岡辺重雄（会長）、加藤誠章、田中貴宏、北川祐治、小寺旭、森川稔、芝内則明、梅林幾彦
桐島一義、高尾英里

○議案

- ・第1号議案 府中市都市計画マスタープラン改訂について
- ・第2号議案 備後圏都市計画ごみ処理場の変更について

○会長の選出

提案に対し異議なしのため、岡辺委員を会長に選出。会長代理委員は田中委員が指名を受ける。

○主な議論

- ・第1号議案 都市計画マスタープラン改訂について

（委員） 都市計画マスタープランはこれからの10年の計画であり、数十年先の社会を想定しながら、技術の進歩・テクノロジーの進歩についてももう少し考えていくことが必要だろうと思う。高齢者の免許返納がされる一方で、自動車も自動運転の技術が進んでおり、自動運転が本格的に実現されれば、まちの作り方も変わってくるのでは。まちなかの道路やまちとまちを繋ぐ道路など、同じ道路でも作り方・考え方を変えることが必要。

（事務局） 公共交通含め、移動はこれから非常に重要な観点となる。都市計画マスタープランでは、移動・ICTというところを位置付けており、来年度からは地域公共交通計画の策定の中でしっかり検討をしていきたい。

（事務局） 府中駅周辺市街地の魅力づくりを戦略的事業として挙げておりますが、現在芝生を敷いて賑わっていることや、天満屋さんや道の駅等があり、2年後にプール・スポーツ施設ができるなかで、このエリアの動線の歩車分離は考えていかなければならないと思っている。

（委員） 産業用の道路でいうと、立派な道があって早く移動できたり、大型車が通ったりできることが良いとされるが、生活道路では、広い道に車がスピードを出して通らないようにいろんな工夫をしているところもある。生活に必要な道路と産業に必要な道路では同じ道路でも意味合いが違う。私のイメージは、府中のまちは既にコンパクトであり、まちなかは人が生活するには優しい道路になっているが、外とのつながりについてはもう少し高速で移動できるよう、メリハリをつけた交通ネットワークを考えるべきと思う。

(委員) 10年先、20年先の人口の減り方を見ると、府中市がやっていけるのかということが懸念される。府中市からなぜ企業が逃げていくのかを考えたとき、道路が脆弱だったからだと思っている。果たして、20年後も府中市を代表する企業が府中市に残ってくれているだろうかと懸念している。

人口の移動によって、鶴飼・広谷には住宅建設が進んでおり、住んでいる人達は生活必需品を買い求めて線路を超えて高木・中須にやってきているが道路が脆弱。

(事務局) 街路網の形成やある程度の幹線道路ネットワークの確保は行っていく。その中で、中須・広谷・高木・鶴飼にはたくさんの方が住まわれており、今回、南北道路が開通することを契機に、人口のダム機能として、住みやすい環境を作っていこうと考えている。また、道路だけでなく下水道整備、子育てがしやすい憩いの場（公園等）の整備などにもしっかり取り組んでいく。

(委員) 中須町においては、芦田川が決壊した場合、10mの浸水があると出ており、芦田川が決壊しないような方策を示していただきたい。

(事務局) 引き続き河川の安全性は整備をお願いしていく。しかし、絶対に安全ということはないので、まずは逃げるということに合わせて取り組んでいく。

(会長) 東日本大震災を経験し、津波に対して高い堤防を作っても、それをまた超えてくるといいうことで、考え方を少し変える必要がある。100年に1回のようなものに対しては一定程度の対策は行うが、1000年に1回のものに対しては、やりすぎであり、逃げるほうが良いということで、都市計画業界でも打ち出されている。そのため、逃げられる環境づくりや、市民啓発をどのようにしていくのかが今は大切。

(委員) コンパクト+ネットワークについて、既に府中市の市街地は「コンパクト」であるため、「ネットワーク」をもっと充実させることが重要では。これからはいろんな行政・医療サービスがリモートでできるといったような、具体的にどういうことが実現できるようになるのかを描かれると、具体的なイメージとして皆さんが感じられるのでは。

(事務局) 医療や教育分野では期待できるものがある。オンライン診療については、ICTを活用することによって時間的ロスを少しでも埋められる。ドローンによって薬を配達するといった話もある。また、30分圏内に産婦人科がある等、医療の面からも道路ネットワークが必要である。デジタル技術の活用や、インフラ整備など複合的に取組ながら進めていく必要がある。

(委員) 目崎出口線がまだ国道に出てきていない、接続されていないということや、歩道がなく、歩行者が非常に危険という状況がある。交差点付近も見通しが悪く危ない。

(事務局) 都市計画マスタープランには国道486号や都市計画道路府中新市線を東西軸として位置づけを行い、改修整備を実施していくということで計画には位置づけをしている。

(委員) 上下と府中を早く結ぶネットワークを今回の計画に位置付けていただきたい。上下にも芝生グラウンドができるが、府中の人が使おうとすると今の上下府中線だとかなり大回りになっているので、ぜひ盛り込んでいただきたい。

(事務局) 上下町とのつながりという意味ではそのような時間短縮の道路があれば府中上下間はすごく近くなる。府中上下線については中心市街地と上下町を結ぶ重要な路線であるとともに、点在している各集落を繋ぐネットワークを繋ぐ役割があるため、府中上下線の機能強化・強靱化については重要であると考え、位置付けている。

(委員) 平成30年の災害時は府中上下線については芦田川に隣接しており被害も大きかった。災害を防止することは難しいのでは。その時の迂回路として坂根の道路を拡張するほうが、良いのではと思う。

(会長) 道路というのは、起点を結ぶだけでなく、その間の沿道にお住いの方々にとってのインフラでもある。このようなことを勘案して今回は一定の整理をされていることと思う。今後の課題として整理していただければと思う。

「第1号議案 府中市都市計画マスタープランの改訂について」異議なしのため、適当とみなされる。

・第2号議案 備後圏都市計画ごみ処理場の変更について

(会長) いわゆるごみの焼却場というと、煙も出るということで、周りに影響を及ぼすことがあり、それをどこに配置するのが都市計画として良いだろうかを検討し、都市計画決定をする。今回名称を変更するというので、少し見学をさせていただいた。これまでは、ごみを燃料化し搬出していたが、今回の変更ではごみのかさを減らし、トラックに積み替え、搬出するものであり、周辺環境への影響はあまり考えられないと思われる。つまり、今回の審議内容は、処理方式の変更に伴い、単に名称を変更するという軽微な変更となっている。

「第2号議案 備後圏都市計画ごみ処理場の変更について」異議なしのため、適当とみなされる。

以上